

## ワーキングペーパーリスト

- No. 1 米地文夫・平塚明：遊牧民と狩猟民と農耕民の出会いとところ  
——'98・'99中国“熱河山地”自然環境調査ノート—— (2000年1月1日)
- No. 2 土井時久：岩手山火山活動の観光入込みへの影響 (2000年3月31日)  
(2002年3月の増刷時にタイトル「火山活動情報の観光などへの経済的影響」に変更)
- No. 3 土井時久：フードシステムの構造変動要因 (2000年3月31日)
- No. 4 元田良孝・高嶋裕一・堀籠義裕：中山間過疎地域の日常生活における情報  
通信の利用状況 ——岩泉・田野畑地域におけるアンケート調査結果—— (2000年5月22日)
- No. 5 Naofumi Muraki：Monotonic Convolution and Monotonic Lévy-Hinčin Formula (2000年11月13日)
- No. 6 野崎道哉：費用便益分析の理論と応用——公共プロジェクトの経済評価—— (2001年10月)
- No. 7 平塚明・豊島正幸・幸丸政明・由井正敏・佐野嘉彦・信夫隆司・山田晴義・  
米地文夫：八幡平地域を対象とした環境調査実習の試み  
——環境政策講座における学生指導の一方法として—— (2001年11月1日)
- No. 8 入試委員会ワーキング・グループ：  
総合政策学部の入試制度のあり方に関する調査・研究中間報告書  
——総合政策学部の将来構想に関する基礎研究（その1）—— (2001年11月)
- No. 9 元田良孝・高嶋裕一・堀籠義裕：  
ヨーロッパの公共交通に関する調査報告書（フィンランド、イギリス） (2001年11月26日)
- No. 10 元田良孝・阿部晃士：全国の火山防災マップ調査 (2002年2月28日)
- No. 11 細谷昂：ブラジル日本移民の生活と意識  
——努力、工夫、そして夢とアイデア—— (2002年7月1日)
- No. 12 今井潤一・渡辺隆裕：戦略的思考を取り入れたリアル・オプション  
——離散2時点モデルによる分析—— (2003年6月18日)
- No. 13 米地文夫・平塚明：ハマナスの分布と名称についての植物地理学的研究 (2003年6月23日)
- No. 14 米地文夫・増子義孝：アジア・ナショナリズムとサウンドスケープおよび  
楽曲 ——インドネシアと日本の激動期の歌曲を中心に—— (2003年6月30日)
- No. 15 脇田健一：階層化された流域管理システムの構築 (2003年7月20日)
- No. 16 信夫隆司：ウェントのコンストラクティヴィズム (2003年7月22日)
- No. 17 信夫隆司：米国立公文書館調査（2003年12月）報告書（第1報）  
——国務省公電にみる商業捕鯨モラトリアムの原点—— (2003年12月)
- No. 18 信夫隆司：岩手の捕鯨に関する文献解題 (2004年1月)
- No. 19 信夫隆司：国連人間環境会議における商業捕鯨モラトリアム案に対するわ  
が国の対応 ——外務省の公文書を通して—— (2004年5月11日)
- No. 20 元田良孝・高嶋裕一・堀籠義裕：ダイヤモンド型交通システムの実態に関す  
る調査報告書 ——帯広市あいのりタクシー・フレ愛りんりんバスを中心と  
して—— (2004年8月19日)
- No. 21 野崎道哉：岩手県における民間企業資本ストックの計測 (2004年11月1日)
- No. 22 信夫隆司：キッシンジャーと若泉敬の電話記録  
——米国立公文書館 Kissinger Telcons 紹介—— (2004年11月8日)

- No. 23 信夫隆司：佐藤—ニクソン会談（1969年）関連の若泉敬資料 (2005年 8月22日)
- No. 24 高嶋裕一：地域ブランド戦略の政策学的理解 (2005年 8月23日)
- No. 25 信夫隆司：佐藤—ニクソン会談（1969年）——資料紹介—— (2005年10月 4日)
- No. 26 高嶋裕一：DEAを用いた費用効率性分析における長期と短期の区別 (2006年 8月28日)
- No. 27 高嶋裕一・小山隆春・菊地信輝・高橋孝典・鳩岡史朗：「格差社会」と公共政策——格差社会論の鳥瞰と岩手県における格差の分析—— (2006年10月23日)
- No. 28 山田佳奈・倉原宗孝・窪幸治：少子高齢社会における地域生活の現状と課題——「情報」と「共同（ネットワーク）」を中心概念として—— (2006年11月26日)

## 編集後記

『総合政策』第8巻第2号をお届けいたします。当初は不慣れであった編集作業も、2回の発行を経験することでようやく慣れてまいりました。今後はもう少し手際よく進められるのではないかと考えております。ただ、このところ投稿数の減少傾向が続いており、今年度も昨年度と比べてかなり減りました。その点がやや気がかりです。独法化以降、専任教員が多方面で精力的に活躍しなければならなくなっていることも1つの要因かも知れません。幸いにも来年度は専任教員の人数が増えますので、多少の余裕が生まれるのではないかと期待したいところです。

会員の皆様、どうか積極的にどしどしとご投稿くださいますよう、お願いを申し上げます。編集委員一同、心よりお待ち申し上げます。

(岡田寛史)